

2011年(平成23年)5月10日 火曜日

♪ 諏訪響、150回目の定期公演

岡谷で14日「炎のコバケン」招き

アマチュアオーケストラとして国内最古の歴史を誇る諏訪交響楽団は14日、岡谷市カノラホールで150回目の定期演奏会を開く。節目を記念し、日本フィルハーモニー交響楽団の元音楽監督で、「炎のコバケン」の愛称で知られる小林研一郎さん(71)＝東京都新宿区＝を初めて指揮者に招く。

「演奏通じて勇気を届けたい」



小林研一郎さん(中央)の指揮で定期演奏会の練習に励む諏訪交響楽団員ら

諏訪響は、茅野市民館で毎年恒例の「信毎春休みファミリーコンサート」などでこれまで何度か演奏し、小林さんとも共演した経験があるピアニスト久元祐子さん(11)＝同＝らを介して小林さんに指揮を依頼。小林さんは「今は文化事業を続けるのが難しい時代で、150回も定期演奏会を重ねたアマチュアは知らない。わたくしは話す。」

演奏するのはフマニノフのピアノ協奏曲第2番と、チャイコフスキーの交響曲第5番の2曲。ともにロシアを舞台に作られ、困難に立ち向かう曲という。久元さんがピアノを担当し、楽団員や身内の演奏家ら約90人が出演する。

8日、カノラホールで行った練習には小林さんが加わり、初めて団員たちを前に指揮棒を振った。小林さんは何度も演奏を止めながら「大地

をのたちち回るような感じを出して」「もつと」をしながら」などと精神的に声を掛けた。12、13日にも小林さんの指揮でリハーサルを予定している。

小林さんの出身地・福島県いわき市は東日本大震災で被災。演奏会では収益の一部を同県をはじめ被害の特に大きかった宮城、岩手各県のオーケストラや被災者に義援金として贈る予定だ。理事長の丸茂洋一さん(50)＝茅野市玉川＝は「演奏を通じて困難に立ち向かう勇気を届けた」と話す。

諏訪響は1925(大正14)年に発足し、翌26年に第1回演奏会を開催。現在は、毎週末曜の夜に諏訪市文化センターで練習し、春と秋に定期演奏会を開いている。ことし3月に予定した春休みファミリーコンサートは震災の影響を考慮して中止になったが、団員たちは気持ちを新たに、定期演奏会に向けて集中してきた。丸茂さんは「小林さんとの出会いで、一段階上に進めるのではないかと期待を込めている。」

午後6時半開演。入場料は前売りが一般2500円、高校生以下1000円。当日はともに5000円増し。問い合わせは事務局の小口さん(80900・8723・0513)へ。